

たぐろ

JFグループ兵庫



伊弉諾神宮（淡路市多賀）

特集 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会

CONTENTS

- 2 特集 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
- 4 能登半島地震の被災地を支援
- 5 第61回 淡路農林水産祭 開催
淡路市でおさかな料理教室を開催

- 6 ようそろ
令和6年度 兵庫県漁村子弟育英生募集
- 7 兵庫JCC通信
- 8 海からのマナザシ
- 10 SEAT CLUB 魚介レシビ

兵庫県水産振興議員 連盟とJF組合長懇談会



JFグループ兵庫水産政策協議会と兵庫県水産振興議員連盟が共催で、令和5年12月11日（月）ラッセホール議員連盟とJF組合長懇談会」を開催しました。懇談会ではJFグループ兵庫水産政策協議会 田沼政男会長から浜田知昭会長に要望書をお渡しするとともに、「兵庫県における漁業の現状と課題 ～ひょうごの豊かな海を未来に～」意見交換を行いましたのでその概要をお伝えします。

において「兵庫県水産振興兵庫県水産振興議員連盟をテーマに話題提供の後、



主催者挨拶をされる浜田議連会長



主催者挨拶をされる田沼協議会会長



来賓祝辞をされる服部副知事

《話題提供》

「兵庫県における漁業の現状と課題 ～ひょうごの豊かな海を未来に～」

兵庫県水産漁港課 山下正品課長から、①2つの海を持つ兵庫県 ②日本海の漁業と課題 ③瀬戸内海の漁業と課題 ④全県的な課題について多岐にわたる話題が提供されました。



《意見交換》

瀬戸内海関係では大阪湾流域の下水処理場からの栄養塩類増加措置の早期実施、下水道部局との連携強化、県条例に基づく窒素濃度の下限値の引き上げなど、日本海関係では日韓暫定水域や大和堆での外国漁船問題、ハタハタやイカの激減などについて参加者間で意見交換を行い、漁業の現状と課題や対策について情報を共有しました。

出席者（敬称略）

〔兵庫県水産振興議員連盟〕 浜田知昭、岸口みのる、岸本かずなお、黒田一美、門間雄司、原テツアキ、伊藤勝正、水田裕一郎、山本敏信、石川憲幸、北川泰寿、内藤兵衛、北野実、北浜みどり、北口寛人、山口晋平、島山清史、松井重樹、吉岡たけし、岡つよし、戸井田ゆうすけ、奥谷謙一、天野文夫、長瀬たけし、松本裕一、橋秀太郎、白井かずや、伊藤栄介、太田やすふみ、住本陽子、なかい隆晃、さかたたかのり、白井たかひろ、菅雄史、松尾智美、橋本けいご

〔JF組合長〕 26名 〔兵庫県〕 服部副知事、菅環境部長、呉田農林水産部次長、塩谷農林水産部次長ほか7名

令和6年度農林水産施策等の推進に係る政策提案書（抜粋）

1 豊かな海の早期実現に向けた取組について

(1) 豊かな海づくりの関連施策について

- ① 栄養塩類管理計画による更なる栄養塩類の供給
- ② 肥料を用いた栄養塩類の供給（施肥）
- ③ 大阪湾流総計画の見直しと大阪湾奥部の流況改善等
- ④ 海域のCOD類型指定等の見直し

(2) 水産技術センターの研究体制の充実について

(3) 栽培漁業の推進について

2 漁業者等の経営安定化に対応した支援について

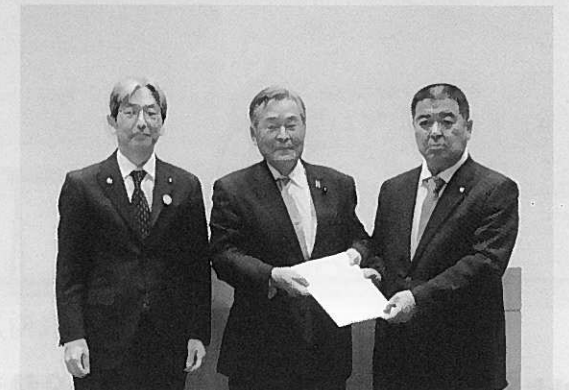
(1) 原油価格・物価高騰対策について

(2) 漁港の有効活用について

3 水産物の消費・流通対策について

(1) 学校給食等への食材提供について

(2) 県産県消の拡大について



服部副知事、浜田議連会長、田沼協議会会長

令和5年12月

JFグループ兵庫水産政策協議会

令和5年8月に県当局に行った政策提案と同内容（拓水803号掲載）

能登半島地震の被災地を支援

～JFいしかわへ支援物資を届ける～

JF兵庫漁連



石川県水産会館前

の安否確認はもとより被害状況の全貌がまだ把握出来ていない状況であるとお話がありました。そのような状況下で邪魔にならないことはもちろん、余震が続く状況で現地入りした者の安全確保のため、早々に帰路につき同日18時に兵庫県水産会館に無事戻ってくる事が出来ました。

なお、本会が届けた支援物資は、1月13日に水産庁漁業取締船「白萩丸」により能登半島東側の蛸島漁港外にて地元蛸島の漁船に引き渡され、その後、石川県漁業協同組合せず支所に引き渡されました。



水産庁HP記事

現在、能登半島地震対策本部（本部長…JF全漁連坂本会長）が実施するJFグループの義援金を兵庫県では一旦、2月26日を期日に受け付けておりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひします。

JF兵庫漁連は、能登半島地震にて甚大な被害を受けたJFいしかわへ支援物資を届けました。

1月6日（土）6時、JFいしかわより要望のあったカセットボンベ、カイロ、トイレトペーパー等の生活物資を3トトラックに積み込み、田沼会長、山田副会長、我本代表監事、職員4名の計7名が兵庫県水産会館（明石市内）を出発しました。

被害の大きかった能登半島の各浜には道路が寸断され不要不急の往来が制限されていたため、JFいしかわの本所がある石川県水産会館（金沢市内）を目指し11時30分に現地へ到着、田沼会長がJFいしかわ福平専務理事にお見舞いを申し上げるとともに支援物資をお渡ししました。福平専務より漁協職員の無事は確認できたが、組合員



トラックに搬入した支援物資の様子



搬入された支援物資の様子



現地に到着したトラックの様子

第61回 淡路農林水産祭 開催！

淡路島内のJF組合長らが今年一年の豊漁を祈願

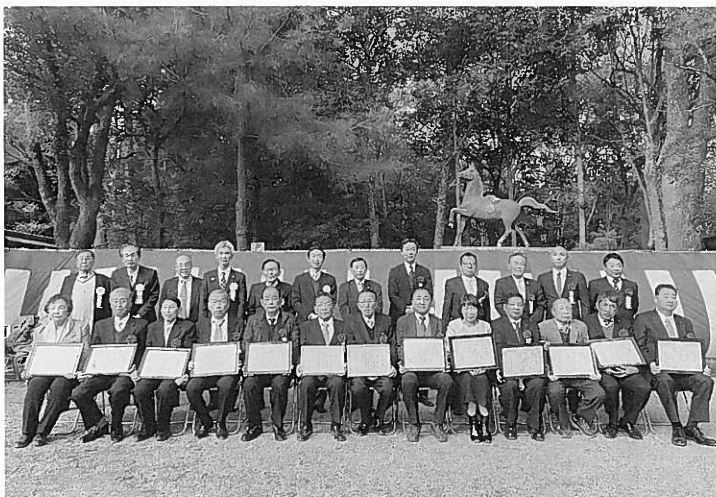
1月15日（月）、淡路島の豊作豊漁を祈願し、農林水産業の振興を目的とした第61回 淡路農林水産祭が淡路市多賀の伊井諾神宮にて開催されました。

式典では、今年一年の豊作と豊漁を祈願する「豊穰豊漁祈願祭」が淡路島内の漁協、系統団体や行政機関の代表者等が参列するなか執り行われました。

引き続き行われた表彰式では、豊かな海を作るための森づくり活動や合同供養祭、漁場清掃活動・海岸美化活動などの行事に意欲的に参加するなど地域漁業に貢献された、森吉廣氏（JF福良）、仮屋漁港（森地区）の安全対策や若手漁業者の育成・指導に尽力され、農業者と共に

に「かいぼり」を行うなど、漁場環境の改善や資源保全に貢献された、森吉秀氏（JF森代表理事組合長）が農林水産功労賞を授与されました。

農林水産物等コンクール水産加工品（のり）の部では、JF森 厳水産に兵庫県知事賞（金賞）、JF室津浦 栄福水産に兵庫県議会議長賞（金賞）がそれぞれ授与されました。



受賞者による記念撮影

【当日、表彰を受けられた方】

氏名	所属
廣吉秀	JF福良
森吉秀	JF森
水産加工品（のり）の部	
金賞（兵庫県知事賞） 厳水産（森吉秀）	JF森
金賞（兵庫県議会議長賞） 栄福水産（連勝也）	JF室津浦
銀賞 丸竹水産（富田良太）	JF森
安啓水産（富田安啓）	JF森
銅賞 三大水産（相田治良）	JF仮屋
岡田水産（岡田光尚）	JF仮屋
大橋水産（大橋宏樹）	JF五色町
傘水産（浜田茂則）	JF室津浦
三共水産（山形和二郎）	JF湊

淡路市でおさかな料理教室を開催

洲本農林水産振興事務所



令和5年12月2日（土）淡路市漁業振興協議会が、第2回親子おさかな料理教室を兵庫立淡路文化会館で開催しました。

当日は、淡路市内に住む20名の親子が参加し、マダイ、クマエビ、甲イカなど、贅沢な素材をふんだんに使用した「さつま揚げ」作り挑戦しました。小さな子供も参加できるように包丁を使わない工夫が施されており、必死に搗粉木ですり身を作る子供たちの姿に笑顔が絶えませんでした。

JF一宮町職員の阿部さんが、立派なマダイを使って捌き方を実演するとその見事な腕前に参加者から歓声が上がりました。

美食の際には、JF一宮町の皆さんが準備したお造り、鯛飯、味噌汁も振る舞われ豪華なランチタイムとなりました。

参加者からは、「これまで切り身しか購入したことがなかったが1尾まるごと購入して挑戦してみたい」とのコメントもいただきました。

また、料理教室終了後に行われた景品のノリを賭けたジャンケン大会では、思わず悔し涙を流してしまう子がいるほど盛り上がりました。

理想のブロッコリーを追求する

小野市の池田陽さんは、甘く、ボリュームがある理想のブロッコリーを求めて30もの品種を実験的に栽培し、粒が細かく食感が良い「ゆめさくら」と耐病性に優れた「sk9-099」等に出会いました。

品質の高いブロッコリーを生産するため、ほ場づくりに力を入れています。高温多湿の環境ではカビや細菌性の病害にかかりやすい傾向にあるため、ほ場に25cmほどの高い畝を作り、土に余分な水分が含まれないようにしています。また、排水溝付近を深く掘り、水が溜まるようにすることで、排水が間に合わなかった場合でも、水がほ場に逆流しないようにしています。

収穫や出荷にも工夫を凝らしており、夜間に栄養分が蓄積されるブロッコリーの性質を活かした朝採りを行い、深夜2時から収穫を開始し8時には収穫を終えます。また、出荷用の箱に氷を詰めることで栄養分や鮮度が保たれた高品質なブロッコリーを消費者に提供しています。JA兵庫みらい小野営農生活センター 営農相談員 掘井亮介さんは、「池田さんは質の高いブロッコリーを出荷するため、手間を惜しまない生産者です」と話します。

今後も池田さんは、甘くてボリュームのある理想のブロッコリーを求めて品種の研究を続けるとともに、採れたての状態のまま消費者に届けられるよう栽培技術に磨きをかけていきます。



<https://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

新年の決意新たに
「新春トップセミナー・賀詞交換会」
を開催

兵庫県生協連は、1月5日(金)、湊川神社 楠公会館において、第19回となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。兵庫県の消費者行政の皆様や、共栄火災海上保険株式会社、会員生協・団体の役員と職員、合わせて30人の方々にご参加いただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

新春トップセミナーでは初めに能登半島地震で犠牲になられた方々への哀悼の意を込め黙祷を行いました。その後、岩山利久会長理事の開会挨拶に続き、兵庫県県民生活部次長 竹谷昭宏様からご挨拶いただきました。そして、生活協同組合コープみやざき 顧問 真方和男様から「協同組合の可能性を考える～コープみやざきの実践から～」と題して講演いただきました。真方様の講演では、コープみやざきでは組合員がオーナーであることを最優先に考えてきたこと。そして職員は組合員の想いを聴くことに注力したことを具体的な事例と共にお話いただきました。お話の中から、組合員と職員が何でも言い合える関係をつくられていることに感銘を受けました。



セミナーの様子



講師 真方和男 顧問

その後開催された賀詞交換会には、兵庫県行政の方々にもご参加いただきました。日頃からご指導いただいている行政の方々や友誼団体、会員生協・団体の皆さま、それぞれに賀詞を交換し、交流を深めました。



▶賀詞交換会風景

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

(ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる)

勤務する淡路島西海岸周辺も人流が増え、コロナ前の生活を取り戻しております。私事ではありますが、約三年前に小さいながらも念願のマイホームを手に入れました。もともと、私自身は物事へのこだわりが殆どない性格ですが、妻のこだわりが絶大で、家の形状、内装、外装、間取り、台所、吹抜け、階段、扉等をはじめ超細部へのこだわりを実現するのに、大手メーカーから地元工務店を転々とし、度重なる夫婦喧嘩の末、土地の購入から約十年以上が経過し、完成に至りませんでした。喧嘩を重ねるにつれ、愛妻のこだわりが徐々に私を侵食し、最終的には二人揃ってとことんこだわり抜いた夢の形となりました。入居当初は、コロナ禍もあり、愛犬と家族と一緒に家で過ごす時間が大半でありましたが、コロナ感染症が緩和された現在でも、快適で居心地が良い事に加え、コロナ禍生活が抜けきれず、ちよっとした引きこもり状態に陥っております。



さて、私のこだわりが職場をはじめ周囲に迷惑をかけていない事を願いつつ、新年のはじまりと、今回の『ようそろ』投稿を機に、アフターコロナにようそろするのでしょうか。年頭に発生した能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。私自身も二十九年前に発生した阪神淡路大震災により避難所・仮設住宅生活を余儀なくされた事を思い出す中、皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。改めまして、一宮町漁業協同組合の山中と申します。平成十年に入組し、気が付けば二十六年目を迎えております。昨年五月に新型コロナウイルス感染症が五類に移行され、約八カ月が経過する中、私が

こだわり

一宮町漁業協同組合 参事 山中 盛吉

令和6年度 兵庫県漁村子弟育英生募集!!

(一財)兵庫県水産振興基金

(一財)兵庫県水産振興基金では令和6年度育英生を次のとおり募集します。

- 応募資格
 - 県下の漁業協同組合又は水産系統団体に所属する組合員又は職員の「子弟」及び「遺族」であり、高校又は大学等に在学(入学予定を含む)し、所属漁協・団体の長が育英生として適当と認められた方
 - ただし、日本学生支援機構等から奨学金を受けている方は、本基金の育英生になることができません。

2 貸与金の額

学 別	貸与月額	
大 学 生	30,000円	
高 校 生	通 学 生	20,000円
	寄 宿 生	25,000円



3 申込方法

所属漁協を通じて「漁村子弟育英生申出票」、「貸与申込書及び添付書類」を提出してください。

提出期限	漁村子弟育英生申出票	令和6年3月29日(金)
	貸与申込書及び添付書類	令和6年4月26日(金)

協同組合人養成講座 2月講座(2月21日(水))のご案内 JF兵庫漁連

開催時間	講座名	講師名
13:00~16:10	漁業法の概要	兵庫県農林水産部 水産漁港課 漁政班主幹 峰 浩司

講座はWEB受講も可能ですので、多数の方々の参加をお待ちしております。また、会館での参加者による情報交換会では、簡単な食事と飲物を交えての職員間のコミュニケーションが図れますので、会館での受講にも参加下さい。



海からのマナザシ

豊かな海を求めて

もと水産大学校理事長 鷲尾 圭司

暴れ龍の年明けに暗澹とした気持ちになります。不漁続きの漁場を眺め、再生の糸口を探したいところですが、なかなか光明はうかがえません。

瀬戸内海環境保全特別措置法が改正され、それまでは「きれいな海」を目指していたものを「きれいな海」を「豊かな海」と目標が変りました。それは瀬戸内海の多くの海域で水質が改善されて「きれいになった」との声が聞こえるようになる一方、「水清ければ魚棲まず」の格言通りに多くの漁業者から「不漁が甚だしい」と嘆きが聞こえるようになった。

新たに加わった「豊かな海」とはどんな海なのか、関わりのある人たちの立場によっても違ってくるが、経済面で見ると、幸福度で見ると、SDGsなど国際的な価値観で見ると、求められるものは異なるだろう。

しかし、自然環境の激変や日本社会の疲弊老化、人々の個人ファーストな事態ではなく、大きな構造的な変化によって不可逆的な事態に立ち至っています。

地球温暖化は温室効果ガスを増やし続けている現代社会がもたらしたもので、まだ数十年は続くと思われる。そのため兵庫県などの温帯に生きていた魚介類は北上を続け、北海道から千島列島あたりに形成される亜寒帯前線に収束するように押し上げられています。

次いで、日本列島での農業の衰退に見るように、「豊葦原瑞穂の国」の大地がやせてきており、沿岸域の貧栄養化が深刻になっています。栄養塩類管理計画で再生をはかるところではありますが、すでに外海域の栄養レベルに陥ってしまった淡路島周辺や播磨沿岸ではかつての栄養レベルへの回復は十年くらいでは困難ではないかと見られます。

トなど、「豊かさ」と向き合う背景や条件は大きく変化しており、かつての高度経済成長期の成功体験は役に立たないどころか弊害にすらなりつつある。今一度、私たちにとって「ほんとうの豊かさ」はどのようなものか、考え直してみたいと思います。

1. 能登半島地震が教えること

元日に発生した能登半島地震は数年前から続いていた群発地震の一端を大規模に破壊しました。地震と津波に襲われた能登半島の皆さまにお見舞い申し上げます。

さて、志賀原発は運良く大破断には至らなかったものの、かつて計画されていた珠洲原発が作られていたら、どんな惨事になったことかと心が痛みます。震災後の救援活動や復旧状況を見るにつけ、過疎地の条件不利地域が政府の不作為により、いかに見放されてきたのかよく分ります。原発や再生エネルギーとされる風力発電や太陽光発電など、エネル

ギーを都市部に吸い上げる仕組みに熱心に投資されてきましたが、対照的に地域の電気や水道など基本的な生活インフラの更新や整備は後回しにされてきたことが露呈しました。奥能登でもとくに外浦側の隆起は漁港を機能不全に追い込みました。転覆した漁船もありましたが、多くの漁船は隆起した漁港内に着底して無事なものも多いのですが、港から出入りできなくては役に立ちません。現状を見る限り外浦側の漁村が再生するのは遠い話となるのは避けられません。内浦側でも津波で施設が損壊し、養殖場をはじめ伝統食品の「いしる（イカで作る魚醤）」やナマコ加工品の「このわた」なども厳しい状況にあります。

そんな能登半島の歴史をたどると、農地の少ない僻地ながら、漁業と海運業に乗り出すなど多様な生き方を探り、日本海文化の一つのセンターにもなっていたことが歴史学者の網野善彦氏などの研究で知られて

しては大きいものがありました。しかし、一方で赤潮の発生やヘドロの堆積、汚濁で汚れて見えるなど、社会的には「汚い海」という評価と併存することになります。そこまで行かなくても、2000年頃の「かなりきれいな海」で漁獲もかなりある程度状況なら、両者の折り合いが付くかも知れません。

ところが、先に触れたように温暖化は戻ってくれませんが、水質においても窒素やリンの濃度を回復させようと、海域に投入しても目的のノリやイカナゴに届く前に他のプランクトンやクラゲに横取りされてしまっています。水質という一つの物差しが上がった、下がったという変化に対して、生態系は同じように行って戻るわけではありません。人間も、一旦糖尿病になると、食事療法をしても激やせを生じるなど、副作用が大きくなつてなかなか健康体には戻らないのと同じことが考えられるのです。

もう一つの「幸福度」というのは、物質的な満足度はGDP（国内総生産）という経済的な尺度ではかれるといいますが、「心の豊かさ」は違う尺度が必要ではないかと世界で議論されています。実際に戦後の復興で一定の経済回復を果たした1970年代まではGDPの拡大が、国民の心の満足ともかなり一致していたといわれます。しかし、その後バブル経済が破綻した1990年頃から

「豊かな海」を議論するとき、戦後の復興期から国策として目指してきた「経済成長」の面からすると「海の生産性」が復活することが期待されるでしょう。1980年代の大豊漁時代を想像すると、漁業生産額と

います。陸地の文化圏からは不便な地と思われませんが、海に突き出た半島は海の交流圏の要衝といえます。

この度の地震災害の復旧や復興の方針として、日本列島を一律につないで管理していく政府の考え方は、国土強靱化のごとく大手ゼネコンの商機にしかならず、繰り返し災害に遭う地元の人々は離村を考えざるを得なくなるでしょう。能登の歴史の知恵を用いることを工夫すれば、集落ごとに自立できる小さな生活圏の構築が考えられます。水も汚水処理も合併式浄化槽と雨水利用を活用し、エネルギーも小規模の再生エネルギーを自給用に整備すれば、遠隔供給に依存する今より、自立性は高まるでしょう。

このように地方が生き残るには、政府に依存するばかりではなく、地域のもっている可能性を生かした多様な考え方を組み立てる必要があるでしょう。面倒なことを誰かに依存するのではなく、自ら担っていく力が地域を支える柱になると思います。その氣力を育むためにも、当面の生業の場を提供し、一時の出稼ぎや疎開の便を図る全国的な支援も大切だと思います。

2. 沿岸漁場のピンチ

日本中から報告されている漁業の不漁や異変は、たまたま起こったもので、いずれは元に戻るといっている。GDPは大きいのに、国民のしあわせ感や下がつて来て「失われた30年」などと自虐的に語られるようになりました。

実際、近年の社会現象にもなっている「心をなくした人たちが」が頻出するなど社会不安の増大や、貧富格差の拡大、環境が荒れ放題の様子など、社会的文化的な多方面での不調が目につきます。そうした観点から考えると、国際的に関心を寄せられている国連の提唱するSDGsのはじめの方にあげられている「貧困、飢餓、健康、教育、環境など」の目標の充足度が優先的に重要ではないでしょうか。

海に関わる様々な立場の人々から議論を起し、価値観の尊重をはかりつつ、相互理解と「海」という資産とどのように付き合っていくのか、折り合いの付け方を検討することから始める必要があります。その時には「環境持続性」と「社会的公正」、さらに「ほんとうの豊かさ」を考える必要があります。これからの社会は相互扶助が大切で、「歩み寄り」と分かち合いの姿勢を保ち、「知足（足を知る）」の心がけが大切になってくると思います。

この連載を終えるにあたり、こうした「豊かな海」を求める歩みを続ける仲間との協働を今後もはかかっていきたいと思えます。皆さまのご健闘を祈ります。

保存版

今が旬の魚介で作る!!

簡単!! 魚介レシピ



豪華!! 七福恵方巻*

調理時間

25分

黒鯛・紅スワイガニ・アジ・アカイカ・とびこと豪華海鮮5種の恵方巻レシピです!!
アカイカやとびこが入ることですまざまな食感を楽しむことができます♪♪



材料

板海苔	2枚
黒鯛刺身用さく	2本
A) 醤油	小さじ1
A) みりん	小さじ1
A) 柚子皮千切り	少々
紅スワイガニ	1/6杯
鰯	片身
B) 醤油	小さじ1
B) 生姜すりおろし	小さじ1
アカイカ	2本
とびこ	大さじ2
キュウリ (1/4)	2本
卵	1個
塩	1つまみ
油	少々
酢飯	1合
(米1合+昆布、 合わせ酢 酢40ml+砂糖15g+塩3g)	

作り方

- 炊飯器に洗米1合と普通炊きより水大さじ2を減らして加え、昆布を入れて炊飯する。
- 黒鯛のさくは1本を3等分ずつに切り分け、Aに漬ける。
- 鰯は腹骨、中骨を取り除き、皮を引き粗めの細切りにして日に漬ける。
- カニは身を取り出して分ける。
- アカイカは薄皮を取り除き、飾り切りをしておく。
- 溶き卵に塩を加え、薄焼き卵を2枚焼き、それぞれ巻いておく。
- 鍋に合わせ酢を入れ、弱火にかけて砂糖を溶かし、炊きあがったご飯に混ぜて酢飯をつくる。
- 巻き簾の上に海苔を縦向きに置き、奥2cmを残して酢飯を広げ、中央にキュウリ、とびこ、アカイカ、アツのたたき、玉子焼き、カニの身、汁を切った漬け黒鯛の具材をのせ、巻き簾で巻く。

ひょうごのお魚ファンクラブ

SEAT CLUB

表紙の言葉



伊弉諾神宮 (淡路市多賀)

国生み神話に登場する伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉尊(いざなみのみこと)を祀る日本最古の宮です。境内は国生みに始まるすべての神功を遂げた伊弉諾尊の神宅の旧跡と伝えられ、神々しい趣で参拝者を迎えてくれます。

写真は農林水産物豊稷豊漁祈願祭の様子です。(関連記事5項)